SHOW-HEY シネマルーム

★★★★

シモーヌ
フランスに最も愛された政治家

2022 年／フランス映画
配給：アット エンタテインメント／140 分

2023（令和 5）年 8 月 14 日鑑賞	シネ・リーブル梅田

Data　２０２３－９４

監督・脚本：オリヴィエ・ダアン
出演：エルザ・ジルベルスタイン／レベッカ・マルデール／オリヴィエ・グルメ／エロディ・ブシェーズ

みどころ

米国初の女性大統領誕生！そう思わせた弁護士出身の女性政治家、ヒラリー・クリントンの名前は多くの日本人が知っているが、“フランスに最も愛された政治家”、シモーヌ・ヴェイユを知っている人は少ないはずだ。

ナチスドイツによる迫害前からフランス国内に“同化ユダヤ人”として住んでいたシモーヌは、強制収容所から“奇跡の生還”を遂げた後、パリ政治学院に学び、司法官として目覚ましい活躍を！

2017 年に 89 歳で亡くなるまでのその“偉人伝”ぶりはすごい。特に、1974 年の「中絶法」制定における奮闘と、1979 年の女性初の欧州議会議長就任における奮闘に注目！

“ガラスの天井”の突破を目指す後輩（女性）たちは、彼女の足跡をしっかりたどりながら猛勉強のネタとしたい。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

▪▫■フランスでは年間興行成績 No.1。シモーヌって一体誰？■▫▪

本作のチラシには、「フランスの年間興行成績 No.1 に輝いたシモーヌ・ヴェイユの奇跡の生涯」の文字が躍っている。しかし、シモーヌ・ヴェイユって一体誰？私の意見では、シモーヌやシモーヌ・ヴェイユと聞いても、それが誰なのか全くわからない日本人がほとんどだろう。そうだからこそ、原題を『シモーヌ』とする本作の邦題には、わざわざ『フランスに最も愛された政治家』という副題がつけられたわけだ。

なお、本作は「エディット・ピアフ、グレース・ケリー、世紀の女性を描くオリヴィエ・ダアン監督 3 部作のラストを飾る」そうだが、あなたはエディット・ピアフとグレース・ケリーについてはきっと知っているはず。また、チラシには「その誇り高き生き方に、胸が熱くなる感動の物語」とあるが、さて・・・？

■□■3 人のシモーヌとは？グランド・ダムとは？■□■

そもそも日本人は、ナチスドイツによるユダヤ人弾圧やホロコースト（の歴史）に疎い。したがって、ユダヤ人虐殺の象徴としてのアウシュビッツ収容所は知っていても、1939 年 9 月 1 日に東の隣国ポーランドに侵攻したナチスドイツが、①西の大国フランスをなぜ短期間で制圧し、ヴィシー（傀儡）政権を樹立することができたのかについても、よく知らない。また、②『黄色い星の子供たち』（10 年）（『シネマ 27』118 頁）で有名な、“ヴェル・ディブ事件”がヴィシー政権下の 1942 年 7 月 16、17 日に、なぜ起きたのかも知らない。

『ヒトラーもの、ホロコーストもの、ナチス映画大全集』（20 年）に収録した①『黄色い星の子供たち』はもとより、②『シャーロット・グレイ』（01 年）（『シネマ 2』231 頁）、②『トリコロールに燃えて』（04 年）（『シネマ 6』243 頁）、③『サラの鍵』（10 年）（『シネマ 28』52 頁）、④『シャトーブリアンからの手紙』（12 年）（『シネマ 33』219 頁）、⑤『パリよ、永遠に』（14 年）（『シネマ 35』273 頁）を観た私にとっても、ナチスドイツに対するフランス人の服従？それとも抵抗？の姿はかなりショッキングなものだった。

しかし、そんな私ですら、本作で描かれた「フランスに最も愛された政治家」シモーヌとは一体誰なのか？ユダヤ人としてフランスで育ったシモーヌが大戦中、ナチスドイツから、如何なる迫害を受けたのか？そして、奇跡の生還を遂げた後、どうやって「フランスに最も愛された政治家」にまで登り詰め、2017 年の逝去に際して、「フランス現代史のグランド・ダム（偉大なる女性）」とまで言われたのか、についても知らない。さらに、本作のシモーヌを含め、フランスには①シモーヌ・ヴェイユ（1902－1943）、②シモーヌ・ド・ボーヴォワール（1908－1986）、③シモーヌ・ヴェイユ（1927－2017）という 3 人のシモーヌがいるそうだが、その 3 人の役割とは？

■□■時間軸をバラバラに！これを観れば人生は長い・・・？■□■

本作には、冒頭に登場する 1974 年の国会で「中絶法」を成立させるべく奮闘する政治家シモーヌ（エルザ・ジルベルスタイン）の姿と、ナチスドイツの迫害を受けながら奇跡の生還後、夫のアントワーヌ（オリヴィエ・グルメ）に支えられながら、パリ政治学院で学び、卒業後は女性弁護士となり、さらに女性初の司法官として刑務所の待遇改善に精力を注ぐ若き日のシモーヌ（レベッカ・マルデール）の姿が登場する。強制収容所からの“死の行軍”における頑張りを見ても、パリ政治学院での勉強の頑張りを見ても、「女性が男性に劣っている」ことなど全くないことは明白だが、第 2 次世界大戦の戦勝国であり、先進民主主義国のフランスでも、れっきとした“女性差別”があったことは間違いない。

そんな状況下、本作はまず、冒頭のシークエンスで 1974 年の国会におけるシモーヌの活躍ぶりを描いた後、時間軸をバラバラにして、彼女のさまざまな活動を描いていく。これは「功成り名を遂げた」シモーヌが自ら書いた“自叙伝”を無視して、オリヴィエ・ダアン監督が勝手に本作のために構成した手法だが、その 1 つ 1 つの時期におけるシモーヌの行動力はすごいから、決して飽きさせられることはない。

私は来年、弁護士生活 50 周年を迎えるため、①『がんばったで！31 年』(05 年)、②『がんばったで！40 年』(13 年)、③『がんばったで！45 年』(19 年) に続いて、④『がんばったで！50 年』を出版する予定。そして、その中にはかなりの活動量が詰まっていると自負しているが、何の何の、本作に見るシモーヌの活動量に比べれば、それはまさに月とスッポンだ。そんなシモーヌの 89 歳までの活動を見れば、人生は長い・・・？

■□■シモーヌの優秀さと“偉人伝”をしっかり確認しよう■□■

私の独断と偏見によって、勝手にシモーヌの 89 年間の人生を大きく区切れば、①ユダヤ人として受けた迫害とナチス収容所時代まで、②解放後の、パリ政治学院での学び時代と、司法官としての若き日の夢にあふれた活動時代、③政治家となり、保健大臣として成立させた「中絶法」以降、欧州議会の初の女性議長に就任するまでの最盛期、の 3 つに分けられる。①のユダヤ人としての迫害時代と収容所時代は『ヒトラーもの、ホロコーストもの、ナチス映画大全集』に収録したい内容だが、②と③は日本人の私がこれまで全然知らなかった、シモーヌのそんな八面六臂の活躍は、まさにシモーヌの“偉人伝”になっている。

米国史上初の女性大統領の誕生間違いなし！そう言われて、2016 年 11 月の大統領選挙に立候補したヒラリー・クリントンは、もともと共和党の泡沫候補に過ぎなかったドナルド・トランプ氏に敗れてしまったが、これは正に世界的な大番狂わせだった。私の独断と偏見によれば、先に大統領になった夫のビル・クリントンよりも、妻のヒラリーの方がよほど優秀で、大統領にふさわしい人物と思えたが、正にこれが、アメリカにおける“ガラスの天井”問題だった。しかし、本作におけるパリ政治学院時代のシモーヌの勉強ぶりや、司法官時代の刑務所改革に向けての目覚ましい活躍ぶりを見ていると、これは若き日のアメリカの弁護士ヒラリー・クリントンと同じ、いやそれ以上の優秀さだから何ともはや・・・。さらに、本作冒頭に見た 1974 年の「中絶法」成立に向けての奮闘もすごいが、1979 年の欧州議会の議長就任に向けての奮闘もすごい。

ちなみに、2022 年 2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻以降、ヨーロッパにおける EU（欧州連合）や NATO（北大西洋条約機構）の存在意義が再認識されている。しかし、1952 年に創設された欧州議会に欧州議会議長がいることや、その役割をきちんと理解している日本人は少ないはずだ。しかも、2022 年 1 月以降の欧州議会議長は女性のロベルタ・メツォラだが、私は本作を観てはじめて、直接選挙が行われた直後の 1979 年に欧州議会議長に選出されたのがシモーヌだと知ってビックリ！

2023（令和 5）年 8 月 16 日記